

平成 30 年 8 月 1 日

越谷保育専門学校
校長 山崎英美夫

平成 30 年度学校関係者評価報告書の公表について

学校関係者評価委員会による本校の「平成 30 年度学校関係者評価報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版 Ver4.0 を使用しました。

平成 30 年 8 月 1 日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫 様

越谷保育専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 池田 祥子

平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会報告

平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会において実施した「平成 29 年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：池田祥子委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園 認定こども園わかばの森園長
奥木 幹夫	埼玉県立越谷東高等学校長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
中島新太郎	元埼玉県吉川市立北谷小学校長、元吉川中央公民館長
伊集院理子	十文字学園女子大学 人間生活学部幼児教育学科 教授

(五十音順)

2 学校側事務局

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
菊地 秀典	同 事務長代理
小林 恵二	同 事務部入試担当

3 委員会開催状況

日時：平成30年6月26日（火） 午前9時15分～午前11時10分

会場：越谷保育専門学校 201 教室

参加委員：上記委員 7名、学校側事務局 8名

4 委員会次第

開会

(1) 委嘱状交付

(2) 委員の紹介

(3) 校長挨拶

(4) 議長選出

(5) 協議

ア 学校概要の説明

イ 学校関係者評価の進め方の説明

ウ 「平成29年度自己評価報告書」に対する評価の実施

エ 学校関係者評価の総評と意見交換

オ その他

(6) その他

ア 次回の開催予定

イ その他

閉会

5 学校関係者評価結果

別紙のとおり

別紙

平成 30 年度越谷保育専門学校 第 1 回学校関係者評価報告書

平成 30 年 6 月 26 日

1 学校概要の説明

本校は幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格が取得できる教員養成機関であると同時に、指定保育士養成施設であります。今年度の入学式が第 50 回となりました。現在は第一部幼稚園教諭保育士養成学科 100 名定員の 1 学科となっています。

2 学校関係者評価の進め方の説明

すでに校長挨拶の中で「自己評価報告書」1、学校の理念、2、本年度の重点目標と達成計画の報告説明が行われたので、3、評価項目別取り組み状況から協議することとなった。

基準 1 について山崎校長から、基準 2 については美入副校長から、基準 3 については会田学科主任から説明が行われた

3 「平成 29 年度自己評価報告書」に対する評価の実施

1 学校の理念、教育目標

・特になし

2 本年度の重点目標と達成計画

・特になし

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

・特になし

基準 2 学校運営

・特になし

基準 3 教育活動

3-11-2 【資格免許取得の指導体制】 評定 3

(委員) 実習を行う中で専門職としての意識が高まるのではないかと。

(学校) 実習先の環境で意識が下がってしまうケースがある

(委員) 実習生を受け入れる側としては、指導する立場の先生が実習生であった学生時代のことを思い出し指導するように話をしている。

(委員) 実習生の指導については、学校の先生方だけが実習生を指導するのではなく、実習先の先生方も実習生を指導するという意識が大切である。

(委員) 学生と実習園とのマッチングを事前にしっかりと行う必要がある。

園がどのような指導（音楽、体育、遊び、造形など）に力を入れているか。

(委員) 四大の場合、実習までに時間があるのでしっかり実習先を選ぶよう指導できる。

基準 4 学修成果

4-15-1 【卒業生の社会的評価を把握している】 評定3

(委員) 養成校の先生方が卒業生の就職先を訪問することはめずらしいのではないかなどのような意図で実施しているのか。

(学校) 当初は学校 PR や次年度へ向けての求人依頼で訪問していたが、就職した学生の早期退職の防止にもつながるようになった。

(委員) 卒業生の先輩から後輩が就職等のアドバイスを得る機会はあるのか。

(学校) 実習前に卒業生からアドバイスを頂く機会を設けているが、現状では現場で、実際に働いている先輩を招くとなると人数や時間に限りがある。

基準5 学生支援

5-17-1 【退学率の低減が図られているか】 評定2

(委員) 退学者の退学理由や退学に至る経緯等の分析はなされているのか。

(学校) 特にデータに基づいた分析はないが、入学試験の判定時点で学校生活が不安と思われる学生はいる。退学者の出身高校へは、退学に至るまでの指導等を報告に伺っている。

(委員) 入学当初から学校生活が不安な学生の対応はどのようにしているのか。

例えばサークル活動が学校継続への有効な手段となるのではないかなど。

(学校) サークル活動の現状は、学生が活動する時間の確保や活性化など、今後検討していく課題がある。

基準6 教育環境

・特になし

基準7 学生の募集と受け入れ

(委員) 基準 1-1-4 「現状の取組状況」で「学生募集では職業委託訓練生を受け入れざるを得ない状況である」とあるが「受け入れざるを得ない」という意味か。

(学校) 委託訓練生は入学定員に余裕がある場合に受け入れ可能であるが、裏を返せば、一般の学生募集で定員に達していないことを意味することとなる。訓練生の受け入れ人数によって募集の成果がわかってしまうこととなり、学校として不本意といえるのではないかなど。

(委員) 委託訓練生制度が社会的ニーズとしてある以上、それを受け入れることも学校として社会的責任を果たすことになると思われる。

(委員) 訓練生と一般学生で学納金の差はあるのか。

(学校) その差はない。

基準8 財務

・特になし

基準9 法令等の遵守

・特になし

基準10 社会貢献・地域貢献

・特になし